

目次

第 1 章 序論:研究の目的と先行研究 -----	1
1.1. 本研究の目的-----	2
1.2. 本研究の展開	
1.3. 術語の定義-----	3
1.3.1. 先行研究における話されたことばと書かれたことば	
1.3.2. 先行研究における談話とテキスト	
1.3.3. 本稿での話されたことばと談話, 書かれたことばとテキスト	
1.4. 先行研究:一連の言語学研究の流れ-----	11
1.4.1. 文法と談話	
1.4.2. 発話行為と談話	
1.4.3. 語用論と談話	
1.4.4. 日本語と韓国語における談話分析	
1.5. 本稿の研究の対象-----	16
1.5.1. 談話分析と会話分析	
1.5.2. 本稿における談話分析の概念と対象	
1.5.3. 談話分析と文法研究の統合	
第 2 章 談話データの構築 -----	22
2.1. 話されたことばのコーパス-----	22
2.1.1. 英語の話されたことばのコーパス	
2.1.2. 韓国語の話されたことばのコーパス	
2.1.3. 日本語の話されたことばのコーパス	
2.2. 本稿における談話データ-----	26
2.2.1. 本稿の談話データの作成過程	
2.2.2. 本稿の談話データの構成	
2.2.3. 会話協力者の条件	
2.2.4. 会話の構成	
2.2.5. 会話協力者の異なり人数	
2.2.6. 会話の録音および録画	
2.2.7. 談話データの構築量	
2.3. 文字化 -----	34
2.3.1. 複線的文字化システム	

- 2.3.2. 複線的文字化システムにおける日本語の表記法
- 2.3.3. 複線の文字化システムにおける韓国語の表記法
- 2.3.4. 文字化の注釈方法

第 3 章 談話の諸単位——文, 発話単位, turn -----	46
3.1. 先行研究における分析単位-----	46
3.1.1. 談話分析における分析単位の先行研究	
3.1.1.1. 分析単位設定における先行諸研究からの課題	
3.1.2. 言語研究の中で行われた文と発話に関する先行研究	
3.1.2.1 文と発話に関する先行研究からの課題	
3.1.3. 話されたことばにおける談話単位としての turn	
3.1.3.1. 談話単位として turn を扱っている先行研究からの課題	
3.2. 談話の単位とは何か-----	52
3.2.1. turn の展開とあいづち発話-----	53
3.2.1.1. turn の概念: turn と turn-taking の区別の捉え方	
3.2.1.2 両方面の営みとしての turn-exchanging	
3.2.1.3. あいづち発話における先行研究	
3.2.1.4. あいづち発話の定義	
3.2.1.5. あいづち発話の発話機能と turn 移行の問題の区別	
3.2.1.6. 従来の turn とあいづち発話の捉え方	
3.2.1.7. 従来の turn の捉え方——単線型	
3.2.1.8. 本稿における turn の捉え方——複線型	
3.2.1.9. あいづち発話の turn としての機能	
3.2.1.9.1. turn の移行に関与的/非関与的な あいづち発話の機能	
3.2.1.9.2. あいづち発話の 2 つの動的な機能	
3.2.2. 本研究における談話単位の同定-----	67
3.2.2.1 turn 切断子	
3.2.2.2 動的単位と静的単位	
3.2.2.3 〈文〉, 〈発話単位〉, 〈turn〉, 〈turn 切断子〉	
3.2.3. 談話から見た文の存在様式-----	71
3.2.3.1. 文の存在様式	
3.2.3.2. 第 3 種の文からなる発話	
3.2.3.3. 文の存在様式をめぐる新たな視座	

第 4 章 文末の構造体	77
4.1. 文末の形の文法的同定	77
4.1.1 述語の有無	78
4.1.1.1. 述語の先行研究	
4.1.1.2. 述語一用言の特別な形	
4.1.1.3. 述語の 2 つの形: 用言の総合的な形 synthetic form と 用言の分析的な形 analytic form	
4.1.1.4. 述語の有無の分類	
4.1.2. 品詞	83
4.1.2.1. 日本語における品詞分類	84
4.1.2.1.1. 指定詞	
4.1.2.1.2. 形容詞	
4.1.2.1.3. 名詞	
4.1.2.1.4. 副詞	
4.1.2.1.5. 形容動詞	
4.1.2.1.6. 助動詞	
4.1.2.1.7. 助詞	
4.1.2.1.8. 間投詞	
4.1.2.1.9. 1 単語ごとに特記すべきもの	
4.1.2.2. 韓国語における品詞	94
4.1.2.2.1. 用言の分類	
4.1.2.2.2. 名詞	
4.1.2.2.3. 接続詞	
4.1.2.2.4. 連体詞	
4.1.2.2.5. 後置詞	
4.1.2.2.6. 1 単語ごとに特記すべきもの	
4.1.2.3. 本稿における日本語と韓国語の品詞分類	99
4.1.2.4. 用言の総合的な形 synthetic form と 用言の分析的な形 analytic form の品詞分類	100
4.1.3. 用言の形態・機能的カテゴリ	102
4.1.4. スピーチレベル	103
4.1.4.1. 日本語と韓国語の先行研究における スピーチレベルの分類	
4.1.4.2. 述語の有無とスピーチレベル	
4.1.4.3. 日本語におけるスピーチレベル	

4.1.4.4. 韓国語におけるスピーチレベル	
4.1.4.5. あいづち発話を含む機能志向発話(function-oriented utterance)の スピーチレベル	
4.2. 倒置文の文末の形の文法的同定	110
第5章 非述語文	111
5.1. 日本語と韓国語の〈述語文〉と〈非述語文〉の分布	111
5.2. 品詞論から見た〈非述語文〉のあり方	131
5.2.1. 品詞論から見た〈非述語文〉の文末	
5.2.2. 分析対象の談話データ	
5.2.3. 〈非述語文〉の文末の品詞解析	
5.2.4. 〈非述語文〉の文末の構造体	
5.3. 文末の構造体からみた〈非述語文〉	135
5.3.1. 〈間投詞系〉で終わる〈非述語文〉	
5.3.1.1. 間投詞の注目すべき機能	
5.3.2. 〈名詞系〉で終わる〈非述語文〉	
5.3.3. 〈副詞系〉で終わる〈非述語文〉	
5.3.4. 〈接続詞系〉で終わる〈非述語文〉	
5.3.5. 〈連体詞系〉で終わる〈非述語文〉	
5.3.6. 〈用言系〉で終わる〈非述語文〉	
5.3.7. 〈助詞系〉で終わる〈非述語文〉	
5.4. 〈非述語文〉の分布	149
5.4.1. 日本語と韓国語における〈非述語文〉の割合	
5.4.2. 日本語と韓国語における世代別〈非述語文〉の品詞の使用率	
5.5. 助詞が成す〈非述語文〉	151
第6章 述語文	155
6.1. 〈述語文〉を統合する述語の構造的な型	155
6.2. 用言単独、もしくは用言と付属語が結合した総合的な型で終止する〈述語文〉	156
6.3. 用言の分析的な型で終止する〈述語文〉	160
6.4. 用言と付属語が結合した分離可能型で終止する〈述語文〉	165
6.5. 用言に付属語が複数結合した付属語複合型で終止する〈述語文〉	166

第 7 章 非述語化のメカニズム	169
7.1. 〈述語文〉と〈非述語文〉のあいだ	169
7.2. 〈述語文〉の役割を果たす〈非述語文〉	169
7.3. 〈述語文〉が〈非述語文〉になるとき	170
7.3.1. 「とか」、「って」、「なんて」、「なんか」—非述語化のデバイス	
7.3.2. 「ていう」、「みたいな」—連体形の非述語化デバイス	
7.4. 日本語と韓国語における連体形による〈非述語文〉	176
7.5. 付属語が成す文	180
第 8 章 緩衝表現 (buffering expression)	183
8.1. buffer(緩衝体)と buffering expression (緩衝表現)	183
8.2. 日本語における緩衝表現	184
8.3. 韓国語における緩衝表現	192
第 9 章 総括	202
参考文献	213
謝辞	226

【表一覧】

表 1	大石初太郎(1958)による「話しことば」と「書きことば」の相違の概略	5
表 2	Noma (2005)による「話されたことば」と「書かれたことば」の違い	6
表 3	談話の下位分類	10
表 4	会話協力者の選定条件	29
表 5	会話協力者の年齢	29
表 6	初対面の会話の組み合わせ: 目上, 目下との会話と同年齢の会話を別々に提示	30
表 7	初対面の会話の組み合わせ: 目上, 目下との会話と同年齢の会話を1つの表に提示	30
表 8	友人同士の会話の組み合わせ	30
表 9	日本語の会話協力者数	31
表 10	韓国語の会話協力者数	31
表 11	会話協力者の出身地別分布	31
表 12	録画および録音の諸条件	32
表 13	音声データの量(単位:分)	33
表 14	文字化データの量(単位:分)	34
表 15	日本語の標準語形と異形態	38
表 16	韓国語の標準語形と異形態	40
表 17	文の終わりに付すタグ	42
表 18	発話の定義	49
表 19	turn-exchanging システム	55
表 20	turn の存在様式と turn の転換様式	55
表 21	turn にかかわる諸定義	63
表 22	本研究における談話の単位の定義	69
表 23	本研究における談話単位の例	70
表 24	文の3つの完結条件	75
表 25	用言の総合的な形 synthetic form	80
表 26	用言の分析的な形 analytic form	80
表 27	本稿における日本語と韓国語の用言の総合的な形	81
表 28	本稿における日本語と韓国語の用言の分析的な形	81
表 29	本稿における日本語と韓国語の品詞対照	99
表 30	日本語におけるスピーチレベル	104
表 31	韓国語におけるスピーチレベル	104
表 32	日本語におけるスピーチレベル	107
表 33	韓国語におけるスピーチレベル	108
表 34	日本語と韓国語におけるあいづち発話を含む機能志向発話のスピーチレベルの類型	109

表 35	倒置文の判定例	110
表 36	日本語の総文数	111
表 37	韓国語の総文数	111
表 38	日本語の述語文と非述語文の総数	113
表 39	韓国語の述語文と非述語文の総数	113
表 40	日本語の初対面同士の会話	114
表 41	韓国語の初対面同士の会話	114
表 42	日本語の友人同士の会話	115
表 43	韓国語の友人同士の会話	115
表 44	日本語の性別における〈述語文〉と〈非述語文〉の割合	116
表 45	韓国語の性別における〈述語文〉と〈非述語文〉の割合	117
表 46	日本語の〈初対面同士の会話〉に表れる男女の性別による述語の有無	118
表 47	日本語の〈友人同士の会話〉に表れる男女の性別による述語の有無	118
表 48	韓国語の〈初対面同士の会話〉に表れる男女の性別による述語の有無	119
表 49	韓国語の〈友人同士の会話〉に表れる男女の性別による述語の有無	120
表 50	日本語の世代別による述語の有無	122
表 51	韓国語の世代別による述語の有無	123
表 52	日本語の〈初対面同士の会話〉における 40 代の男女別の述語の有無	124
表 53	日本語の〈初対面同士の会話〉における 30 代の男女別の述語の有無	125
表 54	日本語の〈初対面同士の会話〉における 20 代の男女別の述語の有無	125
表 55	日本語の〈友人同士の会話〉における 30 代の男女別の述語の有無	125
表 56	日本語の〈友人同士の会話〉における 20 代の男女別の述語の有無	125
表 57	韓国語の〈初対面同士の会話〉における 40 代の男女別の述語の有無	126
表 58	韓国語の〈初対面同士の会話〉における 30 代の男女別の述語の有無	127
表 59	韓国語の〈初対面同士の会話〉における 20 代の男女別の述語の有無	127
表 60	韓国語の〈友人同士の会話〉における 30 代の男女別の述語の有無	127
表 61	韓国語の〈友人同士の会話〉における 20 代の男女別の述語の有無	127
表 62	日本語の年齢の差による〈述語文〉と〈非述語文〉の使用	129
表 63	韓国語の年齢の差による〈述語文〉と〈非述語文〉の使用	130
表 64	本研究における日本語と韓国語の品詞分類	132
表 65	日本語と韓国語の〈非述語文〉の文末の構造体	133
表 66	日本語と韓国語の〈非述語文〉の文末の品詞分布	149
表 67	日本語における世代別品詞分布	150
表 68	韓国語における世代別品詞分布	151
表 69	日本語における助詞で終止する〈非述語文〉	152
表 70	韓国語における助詞で終止する〈非述語文〉	153

【図一覧】

図 1 従来の文字化方法—単線型:垂直に表される turn の展開	35
図 2 単線型:水平に表わされる turn の展開	35
図 3 複線的文字化システムの turn の展開—複線型	36
図 4 従来の turn の捉え方—単線型:垂直に表される turn の展開	61
図 5 単線型:水平に表わされる turn の展開	61
図 6 本稿における turn の捉え方—複線型	62
図 7 turn 移行におけるあいづち発話の機能	64
図 8 発話間におけるあいづち発話の機能	66
図 9 生産的な結節環(node)としてのあいづち発話	66
図 10 文の存在様式	72
図 11 第 3 種の文と文の 3 つの完結条件	75
図 12 述語文と非述語文における文末待遇と非文末待遇の関係	105
図 13 連体終止の構造	179